

## 第 37 号発刊によせて

桐朋教育研究所

所長 今野 淳一

研究紀要に論文を発表する作業は、気が引き締まるものである。実践報告の場合、自分の実践を直視し、その狙いは活かされていたのか、結果はどうだったのか、客観的な立場に立ち、論じなければならない。厳しい反響が寄せられたとしても、それを受け止め、次につながる強い気持ちも欠かせない。そしてそれらの作業を通して、執筆者が成長することは間違いない。働き方改革が叫ばれている中、教職員としての仕事と両立して論文執筆にあたった著者の皆さんの努力と意気込みに、敬意を払いたい。

今号には、4本の論文が集まった。3本が実践報告で、そのうち2本は昨今本校で導入したタブレット端末を活用した事例である。タブレット端末を使用したところ、意見集約が容易になった、温度計測が容易になった、その結果、浮いた時間を本来の用途にたくさん使うことができた。タブレット端末は道具であるという立場に立ち、その有効活用を図る実践報告である。そしてもう1本は、著者が数年にわたり実践してきた活動をまとめたものである。多くの研究会で学び、それを踏まえて授業実践を重ねてきたその目的、目標とするところが、成長過程も交えて明示されている。著者の示す「学習する学校」作りに向けて、大変興味深い内容である。この中の一つでも実践してみようかと感じていただけたなら、それは「学習する学校」に向けて一歩を踏み出したことになろう。

残る1本は、著者の深い見識と観察力に裏付けられたものである。著者は長年にわたり本学園の教育に携わり、常に自身の勉強を怠らず、都度都度、深い洞察を示してきた。本論文も、その一端を示すものである。著者の意欲は、計り知れないものがある。

研究紀要を多くの方に見ていただき、願わくばご意見・ご示唆を頂戴できれば、幸いである。教員は勉強しなければならない。これは、本学園に長年伝えられている言葉である。次号でもまた、いくつもの成果を世に問うことを、心に期したい。

### 執筆者紹介

- 長田 学 桐朋女子中・高等学校教諭  
吉崎亜由美 桐朋女子中・高等学校教諭  
生島 玲子 桐朋女子中・高等学校非常勤講師  
鶴町 優実 桐朋女子中・高等学校教諭  
玉田 珠明 桐朋女子中・高等学校教諭  
岡本 直久 元桐朋学園芸術短期大学非常勤講師

37号編集担当 吉崎亜由美